

2021年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472000627	事業の開始年月日	平成12年5月23日
		指定年月日	平成14年12月1日
法人名	株式会社 メディカルライフケア		
事業所名	グループホーム エレクト		
所在地	( 259-1201 ) 神奈川県平塚市南金目833-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和3年7月11日	評価結果 市町村受理日	令和3年9月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ゆったり、のんびり、急がずに、ご利用者ひとりひとりが思い出を作れる家

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年9月1日	評価機関 評価決定日	令和3年9月14日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JR東海道線「平塚」駅から秦野駅行きバスで約30分「金目駅」バス停で下車し、徒歩5分程の静かな住宅地にあります。建物は木造2階建てで、平塚市で最も古くからの地域に根ざしたグループホームです。

<優れている点>

「のんびり、ゆったり、自分らしく」を事業所独自の理念に掲げ、地域と共にゆとりのある、安心な生活が送れるよう支援をしています。特に、コロナ禍で、地域行事の中止や交流の自粛が叫ばれている中、マスクの着用や手洗いなど、徹底した安全対策を施して散歩や外出をしたり、家族や知人の面会をオンラインに切り替えて実施しています。更に、将棋やぬり絵、歌など事業所内で楽しめるレクリエーションを積極的に行うなど、利用者の不安な気持ちに寄り添う支援をしています。なお、共用空間は、一日2回の消毒と次亜塩素酸水による除菌や、窓の常時開放などを行い、新型コロナウイルスの感染予防に努めています。

<工夫点>

職員は、法人の指導や社内研修の充実で虐待や身体拘束についての理解が進んでいる一方、疲労やストレスも多く抱えており、これらに対処するため職員が第三者のメンタルケアやメディカルアシストが受けられる体制を整えています。また、職員が匿名で意見や提案の言える目安箱を設置し、事業所の運営に役立てています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム エレクト
ユニット名	ふくろう

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎月行われている月次ミーティングの冒頭に理念を読み上げることにより、管理者・職員共に理念を再確認して業務にあたっている	利用者が、安心して自由に生活が出来るよう「のんびり、ゆったり、自分らしく」を事業所独自の理念としています。事務所内に掲示の他、会議や毎月のミーティング時に唱和し、意識を共有しています。更に八つの具体的な行動指針をあげ実践に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している。	新型コロナウイルスの影響もあり、交流の場が少ないが、例年であればボランティアの方を招いてレクを行ってもらったり、自治体主体の消防訓練、中学生の職場訪問の受け入れなどを行っている。今年は鈴川の鯉のぼり祭りなどに参加した。	自治会に加入しています。コロナ禍、地域との交流は中止や自粛を余儀なくされています。その状況の中、マスク着用や手洗いの徹底など、安全に気を配りながら、金目観音初詣や金目ふれあい広場の花見、鈴川鯉のぼり祭りなどに参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナウイルス流行前までは高齢者よるず相談センターひらつかにし「よしみカフェ」、金目公民館「ふれあいサロン」に毎月参加し、地域住民の方々と交流を深めていた	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度は開催できていないが、運営推進会議を定期的開催し、ホームの活動状況を報告し、また地域の課題を話し合う場を設けている。近年では、エレクト通信やふくろう通信にて近況のお知らせを行っている	例年は自治会々長・民生委員・地域包括支援センター職員・管理者などが出席し2ヶ月に一度開催していますが、現在は、新型コロナウイルスの影響で見合わせています。施設の状況や活動報告は「エレクト通信」や「ふくろう通信」で定期的に行っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	ケアプランの更新時期には現在の状態や、今後の方針などを担当者に報告している。また、利用者の体調に変化があれば、電話連絡を入れ、進捗を共有している	介護認定更新時には、必ず行政窓口に出向き、担当者と情報交換を行っています。また生活保護利用者の状況に変化があれば、都度窓口で電話を入れ、情報の共有を図っています。保健所の職員が来訪し、コロナ感染予防の指導を受けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的な内部研修を行い、身体拘束についての知識を学ぶ場を設けている。また、会社主体で行われる研修にも身体拘束について研修を行っている	内部研修を続けた結果、最近ではスピーチロックに対する理解と関心が高まっています。また2ヶ月に1度「身体拘束ゼロへの手引き」を読み返し、レポートを提出しています。昨年12月に職員全員に自己点検シートを配り、虐待防止（身体拘束）の一斉点検を実施しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に対しての研修が行われている為、職員はそれに参加している。	研修で疑問に思ったケアは、ミーティングで再検討しています。また職員の疲労やストレスがケアに悪影響を及ぼさないように、ミーティングなどを通じて職員のメンタルケアを行っています。虐待行為が認められた時は市や県に通報することを周知しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	個人情報保護に関する研修を行ったり、管理者主導のもと定期的に成年後見人や自立支援事業担当者との連絡を取り合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用契約時は懇切丁寧な説明を行っている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族へのアンケートなどを通してニーズをくみ取り、必要に応じて対応している	利用者の近況を知らせる「エレクト便り」を2ヶ月に1回発行しています。また年1回家族宛てにアンケート用紙を送り、その結果を事業所の運営に反映しています。コロナ禍、事業所内で直接面会をすることは出来ませんが、窓越しやオンラインでの面会を行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月行われている月次ミーティングにて業務に関しての相談・検討する場がある。また、そのミーティングには品質管理部署から担当者が来るため、会社への提案に繋がることもある	匿名でも意見が言える目安箱を設置しています。また月次のミーティングで共有したことを業務改善提案書にまとめるなど、職員の意見や提案を運営に反映させる工夫をしています。日々の情報は申し送りで伝え、共有しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事評価制度を導入し、職員の給与に連動する仕組みがある	就業規則は、いつ誰でも閲覧が出来るよう1階事務所に置いてあります。定期健康診断には、夜勤業務を行う職員の為に夜勤者対象の検診を設定しています。また職員は、第三者によるメンタルケアやメディカルアシストが受けられる体制がとられています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月社内研修の場があり、それに参加することが出来る。近年は会場に集まることが出来ない為、オンラインでの研修参加になっているが、手軽さから参加者が増加している	研修計画は役職や常勤・パート別に組んでいます。日頃は、管理者や介護計画作成者などが中心となり、職員への指導や助言を行っています。法人本部のマネージャーも定期的に来訪し、聞き取りや助言を行っています。外部研修の参加を積極的に行っています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナウイルスの影響により、実施できていないが、グループ内の別事業所とは研修やイベント等で交流する機会がある		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	まずはアセスメントを行い、本人の要望を聞き取っている。また、どのようにすれば本人の要望に答えられるか本人と確認しながら共通認識を持つようにしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	アセスメントの段階で本人の情報だけでなく、家族の方の気持ちや取り組んできたことを確認するようにしている。その上で、施設側として行えることを共有し、家族と確認していく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	まず、本人が何をしたいのか尋ねるようにしている。本人の要望が見えてこない際は、コミュニケーションを通してニーズをくみ取るようにしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一人ひとりの性格や考え方に合わせ、職員の支援が一方通行にならないように介助をしている。また、職員は他職員と相談し、より適切なケアをするにはどうすればいいのか考えて業務に取り組んでいる		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	定期的に利用者本人の状況や様子をお知らせにて報告している。また、そのお知らせには利用者の写真を掲載し、直近の姿を見れるようにしている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者のご友人が訪ねてきてくださったたり、お電話で本人とお話し頂く機会がある	コロナ禍で、古くからの友人や知人との関係が途切れないよう、電話やオンライン面会に切り替えて支援しています。なお、安全面から墓参りは短時間で終わるよう家族に依頼しています。また事業所内のできる将棋やぬり絵、歌など趣味の継続の支援も行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日中何かレクをする際や散歩に行くときなど、可能な限り複数の利用者に声をかけ、職員がパイプ役に入ることによって利用者同士のコミュニケーションを促している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の施設に転居された方でも、何かあった際には電話で連絡をいただくなど関係が円満に継続できるようにしている		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々ケアを行っていくうえで本人の要望や気持ちを把握し、それを一人で考えるのではなく、他職員と共有・相談してどのように接していくか考えている	利用者の気持ちや要望の把握に努め、介護記録に残して、ミーティングの議題に取り上げています。希望や意見は、ケアプラン作成時のモニタリングとして、聞く機会を設けており、ケアプランは家族に提示確認して、内容を共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ケアなど日々の業務で悩むことがあれば、その方の経過などが書かれたファイルを確認し、本人の情報を正確に把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本人が無理なく、安心して過ごせるようにケアに取り組んでいる。また、不調が言い出せない利用者に関しても声掛けやバイタルチェックを行い、必要に応じて医療機関に相談している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者がケアプランのたたき台を作成し、関係者と相談・確認した上でケアプランを完成させている	介護計画書は基本的には6ヶ月に1回作成し、必要に応じて適宜更新しています。作成に当り、本人や家族から直接話を聞いたり、電話で連絡して意見を聞いています。医師や看護師からは、定期的に来訪した際に報告を受け、相談しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	普段の様子や、いつもと違うことがあった際は記録に残し、必要に応じて連絡ノートに申し送りをする事で情報共有をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	現状ではコロナウイルスの影響で家族の要望に答えられないことが多いが、オンライン面会や窓越しの面会等、柔軟に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	本人の関わってきている関係機関などとの交流を持ち、集まりなどがある際は積極的に活用している。しかし、コロナウイルスの影響で機会は激減している		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	1ヶ月に2度、協力医療機関の主治医に訪問してもらい、全利用者の健康面を確認してもらっている。また、緊急時には電話連絡を行い、指示を受けるようにしている	協力医は月2回来訪して、利用者全員の診察をしています。歯科医は随時来訪しています。訪問看護ステーションから看護師が毎週来訪しています。往診の際の情報は事業所と共有し、必要時には電話やファックスによる連絡も実施しています。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	概ね週1回の頻度で看護師に訪問してもらい、全利用者の健康状態をチェックしてもらっている。訪問時には1週間でのようなことが起こったか事前に共有している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や看護師とコミュニケーションを取り、なるべく本人の情報を伝えるようにしている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	事前にご家族には終末期に向け、どのようなケアを望むか確認し、書面に残している。また、本人と話し合い、どのような事がしたいか聞き取り、出来る限り実施している	重度化した場合の方針は、契約時に書面を交していますが、変更も可能です。終末期が近づいてきた場合、本人と家族、必要があれば医師も同席して、相談しています。本人と家族が希望すれば、事業所で終末期を迎えることも可能で、看取りの経験もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時に備えたマニュアルを直ぐに確認できる場所に掲示し、どのように対応していくべきか把握できるようにしている。また、社内研修でもテーマを用意している		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	迅速に本社や近隣施設に確認をして、その時に適切な選択ができる様に準備している。また、実際に避難をした際は本社からのバックアップを元に各スタッフが避難の準備を行うことが出来ていた	避難訓練は年に2回実施しています。コロナ禍であり、今年度は消防署には届け出のみしています。訓練には利用者も参加しており、法人スタッフのバックアップもあります。備蓄品については、リストをもとに使用期限を確認し、不足のないようにしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	本人のことを思い、貶める発言や行動をとらないように指導しており、社内研修でもテーマを用意している	言葉かけ、呼びかけに気を付けており、人格を否定するような発言をしないように注意しています。プライバシーや人権の尊重に関する研修は、社内研修として年に1回実施しています。個人情報に係わる書類は、鍵付きのキャビネット内に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	こちらから押し付けるのではなく、本人の要望を聞いて2択でこたえられるような質問をすることで本人に決めてもらうようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	忙しい時などはちょっと待ってて等の声掛けをしてしまうこともある。しかし、余裕がある時は本人と本人のしたいようにゆっくりと接している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々で好きな洋服を着てもらっている。自分で判断ができない利用者には、スタッフが選んだ物を着てもらっている		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	その人がスムーズに食事ができる様に形態を変えて提供している。また、下膳やテーブル拭き等を手伝ってもらっている	食材は業者から週に6回配送され、職員が調理しています。現在、食事は感染予防のために衝立を設置し、黙食を建前としています。利用者は下膳やテーブル拭き、トレイ拭きなどを手伝っています。本人の嚥下状態によって、きざみ食やミキサー食を提供しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	必要に応じて摂取量を記録したり、栄養補助食品などを用いて必要な栄養が取れるように工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	各利用者の状態を考慮して、自分で行える方には歯ブラシを渡して自力、介助が必要な方には洗面台へ誘導して介助する様にしている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時でトイレへ誘導したり、トイレに入ったタイミングで声掛けをしてきちんと排泄が来ているか確認している	各利用者の排泄記録を作成し、排泄間隔を把握することで、トイレに誘導するタイミングなどを、臨機応変に対応しています。時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄ができるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	自身で排便をコントロールできない利用者を把握し、排便状況を確認している。また、必要に応じて下剤などを用いて排便を促すケアを行っている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	自身で入浴日を決めている利用者には該当当日に入浴するか確認し、それ以外の方には周期を決めて入浴の予定を汲み、その都度入浴するか否かの声掛けをしている	入浴は週に2～3回、本人の希望などに合わせて実施し、職員が1対1で支援しています。入浴日を自分で決めている人もいます。本人の意思を尊重し、当日に拒否のある場合は、翌日に再度声かけするなどしています。湯の張り替えと清掃は、毎日実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者の方には自由に過ごしてもらっている。ただ、昼夜逆転にならないよう、日中にレクやコミュニケーションをとっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	居宅療養管理指導を導入した。また、マニュアルに則って服薬介助を行っている。ただ、薬の詳細までを把握している職員は少ない		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事手伝いを積極的に行ってくれる方には手伝いをお願いしている。気分転換でレクにお誘いをしていても個々が異なり、ほぼレクに参加しない利用者もいる		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	年間で行われているイベントに合わせて外出レクを行ったり、散歩に行ったりしていたが、近年はコロナの影響で実施できていない(散歩は行う事が出来ている)	午前と午後に散歩の時間を設けて、1回に1～2名で近所を散歩をしています。その際にはマスクを着用し、帰宅後に手洗いを実施しています。今年も初詣や花見を行っています。散歩困難な利用者には、車いすやシルバーカーなどで外出支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理が難しい方が多いため、施設の方で預かっているが、残金の確認など詳細な情報が知りたいと要望があった際には情報を開示している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば本人に電話を掛けてもらっているが、基本的にそういった要望が出ることはまれである		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースに関しては毎日清掃を実施している。また、各利用者が快適に過ごせるように温度調節などをこまめに行っている。ただ、温度に敏感な方のニーズを全て叶えられているわけではない	共用空間は、1日2回の消毒をしています。清掃は雑巾がけと次亜塩素酸水を使用した除菌を行い、窓を常時開放して換気をしています。室温は、利用者にも確認して調節しています。リビングの飾り付けで、利用者も一緒にちぎり絵の制作などを行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースの中にソファを用意しているのでそこで談笑してもらうことが可能。独りになりたい時は居室に戻る方が多いため、独りになれるスペースは共有空間内にはない		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族には入居時に家で使っていたものなどを持ってきてもらうようにしている。また、配置なども家族や本人に任せている	エアコン、照明器具、介護用ベッド、カーテン、クローゼットは各居室に備え付けられています。清掃は基本的には職員が行っていますが、希望する利用者にはモップを貸し出して実施しています。居室担当者は、衣替えなどの支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	なるべく物を整理して動線を広く確保したり、手すりなど安心して移動ができるようにしている		

事業所名	グループホーム エレクト
ユニット名	もり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎月行われている月次ミーティングの冒頭に理念を読み上げることにより、管理者・職員共に理念を再確認して業務にあたっている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルスの影響もあり、交流の場が少ないが、例年であればボランティアの方を招いてレクを行ってもらったり、自治体主体の消防訓練、中学生の職場訪問の受け入れなどを行っている。今年は鈴川の鯉のぼり祭りなどに参加した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナウイルス流行前までは高齢者よろず相談センターひらつかにし「よしみちカフェ」、金目公民館「ふれあいサロン」に毎月参加し、地域住民の方々と交流を深めていた		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度は開催できていないが、運営推進会議を定期的開催し、ホームの活動状況を報告し、また地域の課題を話し合う場を設けている。近年では、エレクト通信やふくろう通信にて近況のお知らせを行っている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	ケアプランの更新時期には現在の状態や、今後の方針などを担当者に報告している。また、利用者の体調に変化があれば、電話連絡を入れ、進捗を共有している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的な内部研修を行い、身体拘束についての知識を学ぶ場を設けている。また、会社主体で行われる研修にも身体拘束について研修を行っている		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に対しての研修が行われている為、職員はそれに参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	個人情報保護に関しての研修を行ったり、管理者主導のもと定期的に成年後見人や自立支援事業担当者と連絡を取り合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用契約時は懇切丁寧な説明を行っている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族へのアンケートなどを通してニーズをくみ取り、必要に応じて対応している		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月行われている月次ミーティングにて業務に関する相談・検討する場がある。また、そのミーティングには品質管理部署から担当者が来るため、会社への提案に繋がることもある		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事評価制度を導入し、職員の給与に連動する仕組みがある		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月社内研修の場があり、それに参加することが出来る。近年は会場に集まることが出来ない為、オンラインでの研修参加になっているが、手軽さから参加者が増加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナウイルスの影響により、実施できていないが、グループ内の別事業所とは研修やイベント等で交流する機会がある		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	まずはアセスメントを行い、本人の要望を聞き取っている。また、どのようにすれば本人の要望に答えられるか本人と確認しながら共通認識を持つようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	アセスメントの段階で本人の情報だけでなく、家族の方の気持ちや取り組んできたことを確認するようにしている。その上で、施設側として行えることを共有し、家族と確認していく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	まず、本人が何をしたいのか尋ねるようにしている。本人の要望が見えてこない際は、コミュニケーションを通してニーズをくみ取るようにしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一人ひとりの性格や考え方に合わせ、職員の支援が一方通行にならないように介助をしている。また、職員は他職員と相談し、より適切なケアをするにはどうすればいいのか考えて業務に取り組んでいる		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	定期的にご利用者本人の状況や様子をお知らせにて報告している。また、そのお知らせには利用者の写真を掲載し、直近の姿を見れるようにしている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者のご友人が訪ねてきてくださったり、お電話で本人とお話しして頂く機会がある		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日中何かレクをする際や散歩に行くときなど、可能な限り複数の利用者に声をかけ、職員がパイプ役に入ることによって利用者同士のコミュニケーションを促している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の施設に転居された方でも、何かあった際には電話で連絡をいただくなど関係が円満に継続できるようにしている		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々ケアを行っていくうえで本人の要望や気持ちを把握し、それを一人で考えるのではなく、他職員と共有・相談してどのように接していくか考えている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ケアなど日々の業務で悩むことがあれば、その方の経過などが書かれたファイルを確認し、本人の情報を正確に把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本人が無理なく、安心して過ごせるようにケアに取り組んでいる。また、不調が言い出せない利用者に関しても声掛けやバイタルチェックを行い、必要に応じて医療機関に相談している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者がケアプランのたたき台を作成し、関係者と相談・確認した上でケアプランを完成させている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	普段の様子や、いつもと違うことがあった際は記録に残し、必要に応じて連絡ノートに申し送りをする事で情報共有をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	現状ではコロナウイルスの影響で家族の要望に答えられないことが多いが、オンライン面会や窓越しの面会等、柔軟に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	本人の関わってきている関係機関などとの交流を持ち、集まりなどがある際は積極的に活用している。しかし、コロナウイルスの影響で機会は激減している		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	1ヶ月に2度、協力医療機関の主治医に訪問してもらい、全利用者の健康面を確認してもらっている。また、緊急時には電話連絡を行い、指示を受けるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	概ね週1回の頻度で看護師に訪問してもらい、全利用者の健康状態をチェックしてもらっている。訪問時には1週間でどのようなことが起こったか事前に共有している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や看護師とコミュニケーションを取り、なるべく本人の情報を伝えるようにしている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	事前にご家族には終末期に向け、どのようなケアを望むか確認し、書面に残している。また、本人と話し合い、どのような事がしたいか聞き取り、出来る限り実施している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時に備えたマニュアルを直ぐに確認できる場所に掲示し、どのように対応していくべきか把握できるようにしている。また、社内研修でもテーマを用意している		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	迅速に本社や近隣施設に確認をして、その時に適切な選択ができる様に準備している。また、実際に避難をした際は本社からのバックアップを元に各スタッフが避難の準備を行うことが出来ていた		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	本人のことを思い、貶める発言や行動をとらないように指導しており、社内研修でもテーマを用意している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	こちらから押し付けるのではなく、本人の要望を聞いて2択でこたえられるような質問をすることで本人に決めてもらうようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	忙しい時などはちょっと待ってて等の声掛けをしてしまうこともある。しかし、余裕がある時は本人と本人のしたいようにゆっくりと接している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々で好きな洋服を着てもらっている。自分で判断ができない利用者には、スタッフが選んだ物を着てもらっている		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	その人がスムーズに食事ができる様に形態を変えて提供している。また、下膳やテーブル拭き等を手伝ってもらっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	必要に応じて摂取量を記録したり、栄養補助食品などを用いて必要な栄養が取れるように工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	各利用者の状態を考慮して、自分で行える方には歯ブラシを渡して自力、介助が必要な方には洗面台へ誘導して介助する様にしている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時でトイレへ誘導したり、トイレに入ったタイミングで声掛けをしてきちんと排泄が出来ているか確認している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	自身で排便をコントロールできない利用者を把握し、排便状況を確認している。また、必要に応じて下剤などを用いて排便を促すケアを行っている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	自身で入浴日を決めている利用者には該当日に入浴するか確認し、それ以外の方には周期を決めて入浴の予定を汲み、その都度入浴するか否かの声掛けをしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者の方には自由に過ごしてもらっている。ただ、昼夜逆転にならないよう、日中にレクやコミュニケーションをとっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	居宅療養管理指導を導入した。また、マニュアルに則って服薬介助を行っている。ただ、薬の詳細までを把握している職員は少ない		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事手伝いを積極的に行ってくれる方には手伝いをお願いしている。気分転換でレクにお誘いをしても個々で反応が異なり、ほぼレクに参加しない利用者もいる		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	年間で行われているイベントに合わせて外出レクを行ったり、散歩に行ったりしていたが、近年はコロナの影響で実施できていない(散歩は行う事が出来ている)		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理が難しい方が多いため、施設の方で預かっているが、残金の確認など詳細な情報が知りたいと要望があった際には情報を開示している		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば本人に電話を掛けてもらっているが、基本的にそういった要望が出ることはまれである		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースに関しては毎日清掃を実施している。また、各利用者が快適に過ごせるように温度調節などをこまめに行っている。ただ、温度に敏感な方のニーズを全て叶えられているわけではない		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースの中にソファを用意しているなのでそこで談笑してもらうことが可能。独りになりたい時は居室に戻る方が多いため、独りになれるスペースは共有空間内にはない		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族には入居時に家で使っていたものなどを持ってきてもらうようにしている。また、配置なども家族や本人に任せている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	なるべく物を整理して動線を広く確保したり、手すりなど安心して移動ができるようにしている		

2021年度

## 目標達成計画書

事業所名： グループホームエレクト

作成日： 令和3年9月16日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	もし利用者にコロナウイルス感染が発生した場合の対策が不十分である	ユニットのゾーニング、湯せん食品の導入、必要な感染予防物品の準備等、極端に少なくなる人員体制の中での介護の確立を目指す	本社とも協力してシミュレーションを行い、万全の準備を整える。マニュアルとして書面に残す	3ヶ月
2	35	避難訓練は火災を想定したものを行っており、水害への対策訓練が不十分である	避難訓練は水害を想定したものを行う	今年度の避難訓練は水害を想定したものを行う	6ヶ月
3	49	コロナ禍にあって外出の機会が激減している。ホーム近辺の散歩は行っているが、それも自立歩行が可能な限られた利用者になりがちである	車椅子移動の利用者にも屋外へ出る散歩の機会を設ける	散歩に誘う利用者のスケジュールを定め、偏りがないようにする	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月